

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年1月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人 三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地 (電話番号)	浜松市西区雄踏町山崎2829	(電話) 053-597-2586	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年8月31日		

【情報提供票より】(19年7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	(S造「鉄骨造・剛構造」)造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,200 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380円	

(4) 利用者の概要(7月30日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名	
要介護1	1名	要介護2	4名			
要介護3	3名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	79.37歳	最低	59歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	正田医院 野寺歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用定員が8人の家庭的なホームである。併設して特養も開設され、連携を図りながらもホームの特性を活かした支援が行われている。共有空間である居間の天窓からの日射しと空調のバランスが心地よい空間を醸しだしている。職員は利用者一人ひとりをよく見て人格を尊重し、その人に合った支援が行われている。家族との連絡や情報交換も頻繁に行われ、家族の訪問も多い。ホーム協力医の往診もあり、声掛けは利用者・家族の安心に繋がっている。併設施設との連携でイベントやボランティアによる交流等も活発に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、職員内で共有し、計画的な改善に繋げている。改善が難しい項目であっても、定期的にその事柄を取り上げ、確認し合っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票を配布し、管理者が全員分を集約した。評価の意義を理解し、これまでの取り組み、またはあるべき支援を検証する良い機会と捉えた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	発足したばかりであるが、市職員、利用者家族、自治会役員等の委員で構成され、ホームの現状報告や利用者へのサービス提供状況等を報告したり、利用者のサービス向上に向けての意見交換が行われた。ホームとして、この会議から出された意見を運営に反映させていく予定であり、今後の定期的な有意義な開催に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りを月1回発行し、請求書と一緒に送付している。ホーム便りには、行事予定等を掲載し、外出計画予定を見た家族が参加することも多い。家族の訪問も多く、訪問の際には利用者の日常生活の様子を伝える他、運営やサービス提供に関する意見や要望を把握するように努めている。また、出された意見は検討し、運営にも反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域に根付いたホームづくりをこれまでも行ってきた。日常生活における地域との交流も多く、今では地域住民との行き来できる関係にまでなっている。馴染みのスーパーへの買い物、幼稚園、小学校、中学校の園児や生徒との交流もある他、併設する特養で行う納涼祭には、地域住民も参加している。特養と一体と見られがちであるが、ホーム機能を活かして今後の交流にも期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	既存の理念が地域密着型サービスにふさわしいか、管理者及び職員で検討し、新たな取り組み理念、方針を確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で繰り返し話し合い、地域密着型サービスを提供するホームとして、どう取り組んでいくかを確認合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流や繋がりを大切に考えている。地域に根ざしたホームとなるように、近隣住民との関わりを深め、日常的に会話したり馴染みに商店に買い物に出掛ける等している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全ての職員が取り組み、各自が記入後管理者が取りまとめた。職員全てが評価についての意義を理解し、これまでの取り組みを振り返った。また、評価結果は運営推進会議で報告することとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用者及び家族、地域住民や市職員等を交えて立ち上げた。今後は定期的開催することとしている。立上がったばかりの運営推進会議であり、今後の取組みに期待したい。	○	2ヶ月に一度の定期開催とし、様々な議論を行い、利用者の生活の幅が広がるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所が近くにあり、定期的に訪問する機会を設けている。訪問の際には、ホーム運営に関わる相談を行っている。	○	保険者である市(職員)に働きかけ、利用者のサービス向上に向けて定期的に事例研究やケース検討を行う等の場づくりを検討して欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求時にホーム便りを同封し、運営の状況や行事予定を伝えている。また、家族の訪問時には、利用者の生活や健康状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が何でも言える雰囲気づくりに努め、訪問のあった際には、意見や要望を引き出せるように促している。また、苦情があった場合には、適切に解決できるように努めている。意見や要望、苦情の内容を検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職による利用者へのダメージを理解し、できる限りそれが起こらないようにしている。開設以来の常勤職員の異動は少なく、馴染みの関係を重視した支援が継続されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上の必要性を認識し、内部研修の充実を図っている。また、外部研修も可能な限り積極的に受講している。また、介護支援専門員や介護福祉士の資格取得についても支援が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び県の同業者ネットワーク、市内のケアマネ連絡会等において、定期的な研修を受講し、サービスの質の向上に努めている。	○	市内の同業者等と定期的な交流を深め、ケース検討や事例検討を行う等、ネットワークを深め、利用者へのサービス向上に取り組むように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用に馴染めるように体験利用期間を設けて、本人が納得したうえで利用を開始している。また、常々利用者の様子を確認し、サービス提供方法等を検証している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りを一緒にしながら作り方を教えて貰ったり、ホーム内での時間を共有することで、共に喜んだり学んだりする関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に過ごしながら、日々の会話や行動の中から、家族の思いも含めながら本人の意向を把握している。しかし、日々の生活から感じ得た利用者の希望や意向内容についての記録がやや十分でない。	○	一人ひとりの行動や会話、表情等を簡潔に記録することで、それが積上げられて計画見直しの際の材料等にもなると思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケース会議を開催し、利用者の変化等について確認し、利用者の日々の様子や家族からの要望を加え、検討されて介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	検討や話し合いを行っているとのことであるが、その経過記録が不十分である。また、前回の計画に対する評価が明記されていない。体調に変化があった場合には、随時見直しが行われ、計画の変更を行っている。	○	状況が安定している利用者の計画が、長期間見直し(確認)されていない。定期的に確認し評価を行い、その実施記録を残して欲しい。また、目標に対する定期的な効果測定も行って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに併設しているデイサービス利用者と同じペースで活動することができる。また、デイの送迎に同行する等、外出機会も意図的に設けている。ホーム機能の柔軟性を活かし、弾力的な運用に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に添ったかかりつけ医への受診支援を行うと同時に、ホーム協力医の毎週の往診もある。また、受診する際にも、家族の同行を原則としているが、必要に応じて職員が付き添いを行うようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「浴槽で入浴できるのが元気のもと」という信念であり、それが困難になった利用者に対しては、「見合った所で見合った介護を受けられるのが本人の為である。」と利用開始時に家族に説明している。重度化や終末期への対応は考えていない。	○	ホームとして、ターミナルケアに対してどう対応していくのかは、難しい問題も伴うが、定期的にどうしていくかを検討して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳とプライバシーを守ることは、定期的に職員間で確認している。言葉掛けや支援方法についても検討している。個人情報の保護についても内容を理解し、適切な運用を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、ゆったりとした時間の中で一人ひとりのペースが大事にされ希望に添った支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間を楽しみな一時と位置付け、準備や調理、片付け等、利用者と職員が一緒に行っている。食事中は、一緒に食べる職員と片付けの職員がそれぞれ各一名がいるのみで、他の職員はいなくなってしまう。	○	利用者と職員が同じ物を一緒に楽しく見守りながら食事できるように検討して欲しい。また、ホームの特性を活かして、利用者の好みのメニュー等も柔軟に取り入れられるように検討して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は希望に添っているが、職員の勤務上の都合で入浴時間を午後のみと決めている。	○	利用者の希望で、いつでも入浴支援できるように検討して欲しい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りには利用者全員が何らかの形で参加している。利用者の趣味や嗜好を把握し、得意なこと、出来ることを役割をもって生き生きと過ごしている。利用者の生活の質の向上を目指して、充実した日々が送れるように検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩に加え、食材料の買い物に出かけたり、デイサービス送迎時同行するなど、積極的に外出支援を行っている。市広報誌で情報を得たり、毎月一回、計画を立て近隣のフラワーパーク等に出掛け、外食等も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しないようにしているが、徘徊のある利用者の危険防止のため、玄関に鍵を掛ける場合もある。	○	施錠による利用者への弊害を考え、利用者を見守る支援の実践、鍵を掛けないケアについて検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設している特養と一緒に職員だけの避難訓練を毎年2回行い、避難マニュアルも作成されている。法人で非常食等も備蓄され、消防署の協力で救急救命やAEDの講習も職員が受講している。	○	職員だけでなく、利用者も含めた訓練も行い、非常時への対応を図って欲しい。また、あらゆる事態を想定し、地域住民にも協力が仰げるような関係づくりも進めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人内の管理栄養士によるバランスの取れた献立で作られている。食事及び水分摂取量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花が植えられ、共有空間には家庭などで用いられる調度品や装飾が施され、家庭らしい雰囲気づくりに配慮している。天窓も適度な明るさを保ち、心地よい空間となっている。畳が随所に置かれくつろげる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでベッドと机、電話を用意しているが、それに加えて使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、個性ある居室となっているが、やや殺風景な居室もあり、継続した促しが期待される。	○	これまでの生活の継続で、居心地の良い居室となるように利用者及び家族に引き続き呼びかけを行って欲しい。